

京極読書新聞 <第42号>

発行日 平成25年 2月 1日(金)
京極町生涯学習センター湧学館

今年度の「京極文学館」 最終回は 峯崎ひさみさんの「笛」!

京極の町が登場する文芸作品を全部読もう!という呼びかけで始まった平成24年度の「後志の文学講座」。「京極文学館」と名づけられたその試みも、1月18日(金)の最終回、峯崎ひさみさんの作品「笛」読書会で堂々完結です。明治の文人・大町桂月から現代の峯崎ひさみさんまで、百年の時間が流れた「京極」の地を一步一步踏みしめながら旅をしてきました。



京極読書新聞は
毎月1日発行です。

▲読書会終了後、ロビーにて。
前列左から3番目が峯崎さん。

2～3ページ目に続きます。

□「笛」読書会の感想、ご意見を。

■ 羊蹄山を望む北の沢を舞台に熊よけの笛をめぐる少年少女たちのめばえが絹の糸を紡ぐように織り出されて行きます。峯崎作品の根底には、常に父や母を思い友だちやふるさとを思う心が揺るぎない精神を育ててゆくと感じます。この度帰省のために書き上げた「笛」をお土産に病後のお体で妙典からおいで下さり、感動の最終回を飾って下さいました。時代は移り、北の沢の住人たちは、それぞれの決意を抱いて熊笛の置いてあった寿橋を渡って旅立ち、いま北の沢は静寂の中、深い雪の中でねむっています。

■ 笛ひとつから物語が繰り広げられる不思議さ、集落での人々の生活、子供達の生き生きとした様子に、自分の生活した時代がくっきりと甦り、懐かしさで一杯でした。又、満が最後に云えなかった言葉、シロの墓標にかけられていた笛の謎等、疑問も残し、印象深い作品でした。峯崎さんご本人にお話を聞けたことは夢のようで、とても嬉しく思いました。最終回に合わせて、4年振りの来京は新谷先生のご尽力の賜と思い、心から感謝申し上げます。もっと多くの方に知ってもらいたいですね。

■ 「笛」は開拓村に生きた人々の様子が描かれており、その小説家・峯崎さんにお会い出来、私、初めは緊張していたのですが、峯崎さんが気さくな方で、とても楽しい一時でした。又お会い出来る事と小説を楽しみにしております。

■ 幸運にも最終回に参加させていただきありがとうございます。ご本人の峯崎さんに会ってお話を聞くことができ、とても感動しました。改めて、また峯崎さんの作品を読み返すと、最初に読んだ時とまた別の感情も生まれてきました。この読書会には初めての参加でしたが、みなさん生き生きときらきら輝いていました。幸せな時間でした。普段私は、仕事をし、子育てをし、家事に追われ、なかなかゆっくり本を読むというのもできずにいましたが、峯崎さんの作品を手にした時は、時間を忘れ、一気に読みました。本当に心が暖かくなりました。

私は、両親も京極生まれで(母は錦、父はカシムニ)自分も京極で生まれ、この地で結婚をし、今に至っているわけですが、一度も外へ出たことがなく、あまり京極の良さを知らないで、逆にいつかは出たいと思いながら過ごしてきました。この読書会で、峯崎さんや他の方のお話を聞いて、京極に対する思いが少し変わりました。改めて、人との出会いの大切さを感じました。初めての参加にもかかわらず、サイン入りの本のご褒美までいただき、ずっと参加されてきた方に申し訳なく思っています。私にお声をかけて下さった新谷さんにとても感謝しております。本当にありがとうございました。



峯崎ひさみさんのプロフィール

昭和22年、樺太・豊原市に生まれる。幼い時に、家族は京極村・錦に入植。現在は千葉県・市川市で執筆活動が続けられている。平成16年、作品社より『穴はずれ』を発表。その作品には、錦中学校卒業の15歳までを過ごした京極の風土が鮮明に描かれている。

「笛」は、今回の読書会のために特別に書き下ろしてくださった作品。

※『穴はずれ』の他に、湧学館は、平成23年度製本教室が製作した『約束 峯崎ひさみ作品集』を所蔵しています。世界中で、ここ湧学館にしかない一冊。来館された折には手にとってみてください。貸出もできます。



▲峯崎さんの著書「穴はずれ」

後志の文学講座 平成24年度

京極文学館

5月18日(金)	第1回	大町桂月の漢詩「東俱知安鉄山にて」
6月22日(金)	第2回	本山悦恵「雪灯り」
7月20日(金)	第3回	小林多喜二「東俱知安行」
8月24日(金)	第4回	沼田流人「血の呻き」①
9月28日(金)	第5回	沼田流人「血の呻き」②
10月13日(土)	余市の文学をめぐるバスの旅	
11月9日(金)	第6回	沼田流人「血の呻き」③
1月18日(金)	最終回	峯崎ひさみ「笛」

今年度の「京極文学館」で使った読書会テキストに若干の残部があります。
希望される方は湧学館カウンターに声をかけてください。無料です。
沼田流人「血の呻き」については、2月からの「春の製本教室」をご利用ください。

□ 今年度の「京極文学館」についての感想、ご意見を。

■ 毎回の熱意ある解説ありがとうございました。私としては、本山悦恵さんの「雪灯り」、そして峯崎さんの作品が忘れられない受講となりました。勉強不足、読解力の無さで「血の呻き」はとても難しく、到底感動出来る域に達しませんでした。熟読を要しますね。又、「余市の文学をめぐるバスの旅」に都合で参加出来ずとても残念でした。来年度も参加したいと思いますのでよろしくお願い致します。

■ 新谷先生は広い知識と経験を活かして後志の文学を拓き、多くの資料を揃えて示して下さい、製本も手がけ、更に峯崎ひさみさんをグッドタイミングでお迎えする情熱は敬意の外ありません。「随筆集・鉄石山人」の中で、脇方鉄山のために汚泥問題で苦しんで来た四区一号線の農民たち、三井財閥が、より国策とも云える事業で、労働者と云う名目で他雇(タコ)と呼んだ何百人もの中国人を使い敗戦と同時に捨て去ったこと、大町政利所長が調停委員であったこと、子供の時から表に出ない謎が解けて来ました。

■ 来年度は、京極を出て、羊蹄山麓の地域が舞台となった小説を読書すると聞いておりますので楽しみにしております。

□ 現在、「山麓文学館」(羊蹄山麓の街が舞台となった作品を読んでゆく)と「沼田流人読書会」(沼田流人の全作品を一年間かけて読んでゆく)の2本を構想中です。これで、金曜の夜は必ず湧学館で何かやっている、という状態になるでしょう。
<新谷>



湧学館 春の製本教室のお知らせ

日 程： 第1回／2月9日(土) 午後1時～午後3時
第2回／2月23日(土) 午後1時～午後3時
第3回／3月9日(土) 午後1時～午後3時

講 師：新谷 保人(湧学館 司書)

定 員：5名

製作費：無料。道具・材料とも湧学館で準備します。

受 付：平成25年2月2日(土)までに湧学館(Tel42-2700)へお申し込みください。

※作業準備の都合上、締め切り後のお申し込みは受け付けられませんのでご了承ください。



製作予定作品

① 沼田流人「血の呻き」(叢文閣, 大正12年発行)

発売と同時に即日発売処分となった幻の書を
紙質にまでこだわって完全復刻をめざします／約500頁

② 「平家物語 巻五」

「平家物語」読書会が使っているテキストを基に製本化
今年度は「巻五」／コデックス装／約100頁

③ 湧学館編「新版 胆振線作品集」

2010年版に6作品を新たに追加／白老町元陣屋資料館で
行った講演「文芸作品を走る胆振線」を収録／約120頁

④ ソフト装「約束 峯崎ひさみ作品集」

好評につき今年も製作／前回のハードカバー装とは
ひと味ちがう読みやすいソフト装で／約280頁



発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

